

湯島・本郷地区



湯島一丁目町会	湯島会
新花会	三組町会
妻恋会	湯島三丁目梅光会
本郷三丁目南部会	本郷三丁目金助町会
春木会	元二親和会
本郷弓一町会	本郷二丁目元一会
本郷二丁目弓二会	本郷二・三丁目町会
本一町会	本郷四町会
上真砂町会	下真砂町会
中真砂町会	田町町会
菊坂町会	菊和会
本郷五丁目台町町会	本郷五丁目町会
赤門前町会	本富士町会
天梅会	三組弥生会
天一町会	天二町会
天三町会	同朋町会
湯島切通町会	湯島北町会
竜岡会	両門町会

■ 歴代会長

初代	和田 義春 (昭和30年1月～昭和31年7月)
二代	蓮井 健吉 (昭和31年7月～昭和45年5月)
三代	小野沢 清 (昭和45年5月～昭和55年9月)
四代	坂田 実 (昭和55年9月～平成2年5月)
五代	利根川政次 (平成2年5月～平成19年3月)
代行	諸岡 健至 (平成19年3月～平成19年5月)
六代	諸岡 健至 (平成19年5月～)

地区町会連合会のあゆみ

平成2年に第4代会長坂田実氏が退任し第5代会長として利根川政次氏が就任した。利根川氏は区議会議員も兼ねていたので、文町連に関する情報も豊かで、地域活性化事業をやれば、区から助成金が出ることを知り、当町連としてもとり組みたいという意向をもち、また町会員の見聞を広めるため施設見学会を実施したいとの提案をし可決させた。

地域活性化事業として当時はカラオケブームで文京区でも文京カラオケ大会を実施しているので、当町連としてもこれを実施することになった。第1回を湯島の三洋電機会館会議室を借り、審査員にプロ歌手を呼んで実施した。約30名の参加があり盛大であった。しかし第2回は参加が少なくなり、同じ人が参加するという事態になったので、カラオケ大会は2回で終わった。その代案として36町会を四つのブロックに分けて、1年1ブロックの輪番制で実施することにした。テーマは各ブロックで決めることにした。以来各ブロックはそれぞれ工夫を凝らし、各活性化事業とも約500名の参加があり、この計画は成功した。

これと並行してもう一つの町連行事として施設見学会を計画実施した。バブル前は産業各社の景気がよく。各社はその宣伝をかねて自社バスを用意して見学者を送迎してくれたので、各町会員の社会勉強・教養の向上や親睦を図ることにした。電力、ガス、自動車、鉄鋼、ゴミ処理等が主であった。毎年1回秋に実施したが、当時参加者は80名に達した。

バブルがはじけてからは企業も落ちこみ自社バスでの送迎がなくなったので、以後は当町連でバスを1台チャーターし、一人2千円の参加費を徴収して（各町会が負担）実施することになり、見学先が変わっているが、現在も続いている。

平成6年になって広報紙を発行することになり、編集委員会を設け委員は4名とし委員長には松本清氏が選任された。目標は、各町会の実情、特徴、行事などを紹介して互いの町会を知って参考とすること、地域活性化事業の予告と報告、施設見学会の報告を柱とし、更に長寿万歳欄を設けて長寿の方々の健康法を紹介したり、地元歴史の掘り起こし、加賀藩上屋敷（東大）をはじめ

め名だたる大名の屋敷が特に本郷地区に多いので、各藩について当時の様子をしらべて載せることにした。そのほか青少年対策湯島地区委員会や各敬老会の活動状況や、管内小中学校の特別行事、管内老舗の紹介などを取り扱った。

(以上年表参照)

●平成6年度

A 地域活性化事業 どじょうつかみ大会

B 施設見学会 東京電力火力発電所

C 広報紙 湯島本郷だより

上記 A、B、わが町 新花会、同四会、元二親和会、官公庁連絡会、文京区防災訓練、各町会年間行事計画

●平成7年度

A 地域活性化事業 湯島本郷お祭りひろば

B 施設見学会 江戸東京博物館特別展示

C 広報紙 A、B、わが町 本郷二・三丁目町会、湯島一丁目町会、上真砂町会、天梅会、官公庁連絡会、阪神淡路大震災報告会、町連防災座談会、湯島天神改築、長寿万歳 大石隆子（書道）、本郷五丁目町会40周年記念行事、妻恋神社夢枕七福神めぐり（新花町会）

●平成8年度

A 地域活性化事業 湯島地域大運動会

B 施設見学会 ゴミ埋立処分場

C 広報紙 A、B、わが町 天一町会、三

組町会、本郷弓一町会、下真砂町会、官公庁連絡会、㊤本郷座、三河稲荷節分祭、長寿万歳 石井房さん、中川ゆきさん、田中益太郎氏

●平成9年度

A 地域活性化事業 おとなも子供もゲーム大会

B 施設見学会 杉並清掃工場

C 広報紙 A、B、わが町 三組弥生会、妻恋会、元一町会、中真砂町会、官公庁連絡会、三菱資料館紹介、南部会および本郷五丁目町会50周年式典、東大120周年、伝統工芸つげ櫛、婦人部訪問（菊坂町会）、長寿万歳 黒河内冽氏、品川力氏、遠藤マスさん

●平成10年度

A 地域活性化事業 どじょうつかみ大会

B 施設見学会 新装本郷郵便局、岩崎邸、横山大観記念館



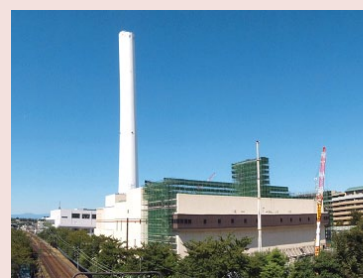
平成5年 カラオケ大会（本郷台中）



平成6年 東京電力横浜火力発電所



平成7年 お祭りひろば



平成9年 杉並清掃工場

C広報紙 A、B、わが町 天三町会、南部会、弓二会、田町町会、官公庁連絡会、婦人部訪問(天二町会)、文京区防災訓練(東大)、資源回収開始、長寿万歳 近藤五六氏、江端義重氏、甲田文吾氏、白山神社紹介、湯島・本郷いまむかし

●平成11年度

A地域活性化事業 子ども広場、模擬店
B施設見学会 港清掃工場
C広報紙 わが町 同朋町会、梅光会、本一町会、菊坂町会、官公庁連絡会、㊤金田一春彦氏訪問、大正大震災、本郷いまむかし(三ツ子誕生、金助町、斉藤滋久さん)、婦人部訪問、金助町、長寿万歳 三田政雄氏、春田金太郎氏、金井大吉氏

●平成12年度

A地域活性化事業 湯島お楽しみ広場
B施設見学会 皇居見学
C広報紙 A、B、わが町 湯島北町会、菊和会、切通町会、金助町会、官公庁連絡会、意見交換会、㊤加賀屋敷周辺、四中跡地問題、湯島三町会夜間パトロール、長寿万歳 小林伸太郎氏

●平成13年度

A地域活性化事業 わくわくフェスティバル
B施設見学会 自然教育園
C広報紙 A、B、わが町 赤門前町会、台町町会、竜岡会、天二町会、官公庁連絡会、



平成11年 子ども広場(湯島小)



平成13年 模擬店バザー(本郷台中)

㊤加賀藩江戸屋敷12 真砂小遺跡、文京区防災訓練(東大)、出張所見直し(地域活動センターとなる)、長寿万歳 橘大始氏、上村正氏、小杉利郎氏

●平成14年度

A地域活性化事業 どじょうつかみ大会
B施設見学会 柴又帝釈天
C広報紙 A、B、官公庁連絡会意見交換会、わが町 春木町、両門町会、湯島会、本郷五丁目町会、㊤加賀藩江戸屋敷45 本郷小完成、利根川会長叙勲、長寿万歳 土澤秀雄氏、千葉せんさん

●平成15年度

A地域活性化事業 中国競技芸術団
B施設見学会 江戸博物館特別展示(エノケン)
C広報紙 A、B、千葉エネルギーセンター、官公庁連絡会意見交換会、わが町パートII 春木町、壺屋、㊤樋口一葉、本郷消



平成10年 どじょうつかみ大会

防少年団、長寿万歳 五十畑サクさん、杉江鶴三氏

●平成16年度

A 地域活性化事業 模擬店バザー
B 施設見学会 国立印刷局滝野川工場
C 広報紙 A、B、わが町パートⅡ 春木町出羽屋岡崎商店、特養ホーム湯島の郷、本郷三原堂、本富士交通少年団、㊤高田藩江戸屋敷、樋口一葉、妻恋神社夢枕、長寿万歳 高木房子さん

●平成17年度

A 地域活性化事業 わくわくフェスティバル
B 施設見学会 六本木ヒルズ
C 広報紙 A、B、わが町パートⅡ 本郷五丁目町会暁秀館、料亭百万石、区との意見交換会、50周年記念式典（天三町会、本郷五丁目町会）、㊤高田藩江戸屋敷、長寿万歳 金助町本郷金寿会 藤沢一義氏

●平成18年度

A 地域活性化事業 どじょうつかみ大会
B 施設見学会 三溪園
C 広報紙 A、B、わが町パートⅡ 同朋町会花月、弓一文化会朝陽館、㊤本多忠勝下屋敷、湯島聖堂、文京区防災訓練、本郷消防団、長寿万歳 春田金太郎ご夫妻、棚橋スギさん、酒井長助氏

●平成19年度

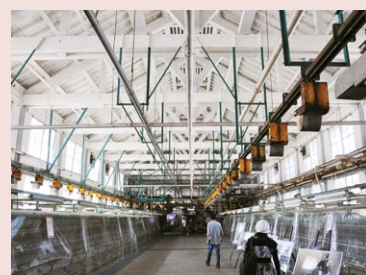
A 地域活性化事業 湯島本郷おたのしみ広場



平成18年 どじょうつかみ大会抽選会(本郷小)



平成19年 お楽しみひろば



平成19年 富岡製糸工場

B 施設見学会 富岡製糸場
C 広報紙 A、B、わが町パートⅡ 同四会明月堂、同四会金魚坂、区との意見交換会、㊤高松藩江戸屋敷、利根川会長業績、夏行事いろいろ、新花・三組・三組弥生会 合同防災訓練、本郷五丁目農園、菊坂町会 田植、長寿万歳 前田正男氏、内保留七氏

●平成20年度

A 施設見学会 川越市立鉄道博物館
B 広報紙 わが町パートⅡ 天三町会つる瀬、切通町会江知勝、本郷五丁目町会高島堂薬局、スクールガード始まる、孔子祭、㊤高崎藩松平右亮介、小山内会長叙勲、野外活動、長寿万歳 榎瀧美佐男氏、塚本元吉氏

●平成21年度

A 施設見学会 佐野厄除大師ほか
B 広報紙 A、わが町パートⅡ 赤門扇屋、台町鳳明館、わが町組織と行事元一会、㊤福山藩阿部家中屋敷、岡田嘉子、文京区防



平成16年 大蔵省滝野川印刷所

災訓練、地区対ウォークラリー、長寿万歳
長崎達洋氏、船越文六氏

●平成22年度

A 施設見学会 宇宙センター、笠間稲荷
B 広報紙 A、わが町組織と行事 三組町
会、続元一会、湯島本郷まちおこしイベント、
㊤水戸藩江戸屋敷、福山藩中屋敷、花柳章
太郎と湯島小、消防総監賞、湯島三町会S
YM、本郷五丁目町会、弓二会農園、東京都・
文京区合同防災訓練、地区対都電でGO

●平成23年度

A 施設見学会 佐倉惣五郎記念館ほか
B 広報紙 A、わが町組織と行事 元二親
和会、切通町会、上真砂町会、本富士地区
文高連芸能大会、湯島小学校140周年記念
式典、雨宮正男氏叙勲、意見交換会、㊤水
戸藩江戸屋敷、長寿万歳 長谷川正康氏、
地区対おやつ作り、利根川政次氏を悼む、
なでしこジャパン優勝

●平成24年度

A 施設見学会 益子焼と足利学校
B 広報紙 わが町組織と行事 菊坂町会、
三組弥生会、㊤庭瀬藩 壱岐坂と唐津藩、
石川啄木12、地区対地域こどもプラザ、
老人クラブ本三さつき会、湯島3町会防災
訓練、長寿万歳 千代田フサ子さん、高橋
雄次郎氏

●平成25年度

A 施設見学会 偕楽園ほか
B 広報紙 A、わが町組織と行事 新花会、
赤門前町会、湯島会、㊤石川啄木3、金田一
京助12、意見交換会、東京都防災隣組設定 湯
島三町会SYM、本郷五丁目町会、地区対おや
つ作り、長寿万歳 千葉センさん、矢嶋キクさん



平成20年 川越市江戸時代町並



平成22年 宇宙センター



平成24年 足利学校

湯島一丁目町会

● 昭和22年結成

■ 歴代会長

初代 櫻沢次兵衛（昭和22年～昭和30年）
二代 青木健太郎（昭和30年～昭和55年）
三代 青木謹之助（昭和55年～平成元年）

四代 本田 正明（平成2年～平成21年）
五代 廣橋 裕介（平成22年～）

町会のあゆみ

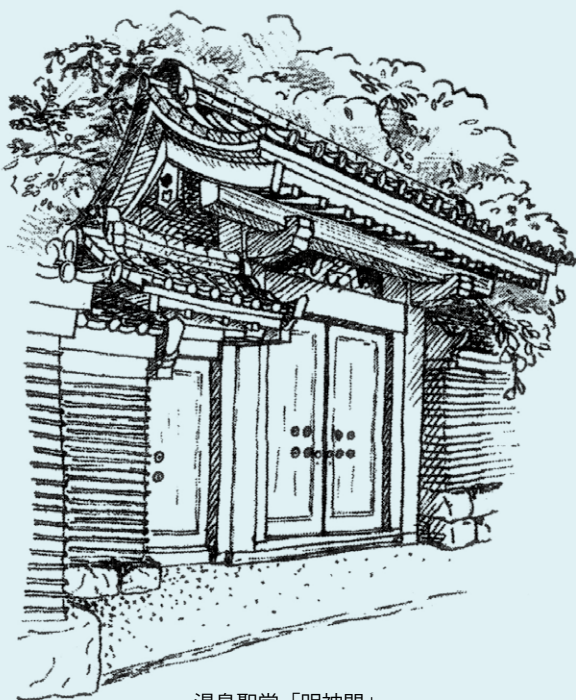
当町会の生いたちは現存する資料からみますと明治31年浜島幾四郎氏や原沢常三郎氏が町政の改革を叫んで従来の差配人制度を改めて町民懇親のため、湯島一丁目睦会が創立され、35年に総代会、町内睦会、懇話会、衛生組合の4団体が合併し、今日の町会の基礎ができました。大正12年関東大震災をうけたが翌13年再興を見るに至り、町会員は61世帯と記録にある。その後昭和20年戦災で町内中を焼失したものの会員の努力により再興し今日に至った。

当町会は神田明神の坂の左右に所在し、

昌平坂学問所“昌平黌”に付属した孔子の廟である湯島聖堂がある。徳川幕府時代の昌平黌は武家子弟の教育のみであり庶民は寺子屋で習字、算術を教えられており本郷区内に5つあった寺子屋の1つである市川小学校が当町内にあり明治生まれの子供はここに通っていた。昌平黌の門前地として影響を受け幾多の変遷はあったものの区内でも歴史ある町会のひとつであります。

主な活動として防犯防災等各諸団体への協力。各種賛助会への協力。

行事として新年総会、懇親会、湯島神社祭礼、有志による旅行会の開催等。



湯島聖堂「明神門」



中伊豆旅行

■ 歴代会長

初代 前嶋栄次郎（昭和25年8月～昭和30年3月）

二代 山口 喜久（昭和30年4月～昭和32年4月）

三代 沖 貞利（昭和32年4月～昭和34年3月）

四代 利根川政次（昭和34年4月～平成19年3月）

五代 赤塚 和侑（平成19年3月～）

町会のあゆみ

当湯島会は発足して64年目となり、私は五代目の町会長となります。初詣に始まり、新年会、湯島天満宮大祭、焼肉大会、ラジオ体操、バス旅行、年末大掃除、防火演習、夜警等町会員と企業の皆さんが一体となり、数々の行事を行ってまいりました。

これからも歴代の会長の志である「ふれあいのある街づくり」を継承し、さらに発展をめざしてまいります。



平成13年12月24日 湯島会年末大掃除



湯島天満宮梅まつり出演の湯島はやし連



湯島会創立60周年記念（平成21年10月20日 於 東京ガーデンパレス）

■ 歴代会長

初代	田沢仲次郎（不詳）	六代	河西 功（昭和47年5月～昭和53年4月）
二代	河西 瑞穂（不詳）	七代	小室 由蔵（昭和53年5月～平成元年4月）
三代	前田 深（昭和36年～昭和39年）	八代	榊瀧美佐男（平成元年5月～平成14年4月）
四代	栗原吉次郎（昭和40年～昭和42年）	九代	田中 祺益（平成14年5月～平成23年4月）
五代	中田 高平（昭和43年～昭和46年）	十代	小倉 孝允（平成23年5月～）

町会のあゆみ

新花会は、旧町名の湯島新花町に由来しており、範囲も広く、真言宗「霊雲寺」、区内最初の小学校である「湯島小学校」（明治4年開校）も含み、多数の会員で成り立っています。町内には、新花の氏神様と呼ばれる「湯島御霊社」があります。祭神は八座で合殿には與財恵門稲荷と大己貴神を祀っており、会員一丸となって崇敬護持しています。2010年（平成22年）には、御鎮座3百年祭が近隣の町会関係者をお招きして盛大に行われました。隣接する社務所の大広間で毎月10日に町会常会を開催し、役員はじめ班長さん等も出席して各部の事業計画、報告等が行われ、問題提起があれば意見交換を行い、合意の上実行されています。季節の主な祭事（節分祭、二の午祭、秋の例大祭、七五三）には、毎年大勢の町会員と近隣の皆様方にもご参加頂き、親睦を深めています。町会行事は、境内での観桜会、ラジオ体操をはじめ日帰り温泉、敬老のお祝い等を実施、それが町会内の連帯感を緊密にしていると思います。また町会

活動として夏期と年末の夜警に加えて、月例役員会後防犯パトロールを続けています。また大震災や大雨などの災害に備えて非常用物資を備蓄し、防災訓練（隣接町会合同）を行っています。

近年阪神淡路、中越等短い間隔で起きた大震災を経て発生した東日本大震災により、研究機関において首都直下地震による大規模災害が高い確率で想定されています。いざという時に行政としても同時に区民をフォローすることは実質的に困難と予想されます。それを念頭において新花会は町会を主体とした自主防災組織を速やかに展開しようと考え、平成18年7月に3町会（新花・三組弥生・三組）合同で防災訓練を実施しました。これを契機に平成19年7月「SYM3町会災害連合会」を結成し、平成20年2月に文京区と災害対策活動に関する覚え書きを交しました。平成24年4月に、3町会で協力して防災対策マニュアルを作成するなど災害的協力体制を確立する取り組みが評価され、東京防災隣組に認定されました。



新花会 節分祭



SYM 総合防災訓練

■ 歴代会長

山田 景福 (3年間)、山田 辰造 (2年間)、濱田 春次 (3年間)、竹島 健次 (2年間)、仁木 平四郎 (4年間)、濱田 春次 (3年間)、山田 景福 (10年間)、濱田 春次 (4年間)、高

浪 正勝 (4年間)、兼平 英男 (2年間)、丸島 清義 (1年間)、高浪 正勝 (1年間)、中山 京子 (1年間)、川口 宣男 (2年間)、犀川 薫 (1年間)、大野 等 (9年間)、高浪 武 (平成18年～)

町会のあゆみ

戦前から名称は三組町会でした。昭和27年に三組会で再発足し、昭和35年に三組町会に名称を改称しました。

高浪会長を中心にしての主な町会活動は平成18年に近隣町会(新花会、三組弥生会、三組町会)でSYM三町会災害連合会を結成しました。合同防災訓練や救命講習会、要援護者対策の実習会の他加盟事業所27社と共同で防災訓練を行っています。

平成24年3月28日に日頃の活動が評価され東京都防災隣組第1回認定団体に認定されました。

その他には湯島天満宮祭礼時の町内祭、ラジオ体操と年末の夜警は毎年行い、納涼会と日帰りバス旅行を隔年で行っています。

それ以外にも婦人部の活動等多岐にわたり行っています。

特に、平成23年は東日本大震災の為5月の町内祭を中止、代わりに義援金募集を目的としたチャリティーイベント「とどけ元気」を200名以上の参加者を得て開催し町



24年ビルからの救出・救助、火をつけての消火訓練



大人神輿宵宮



ラジオ体操



納涼会



日帰りバス旅行

内事業所10社による展示即売会と被災地南相馬市からの出展販売や町会員によるフリーマーケットの他、防災意識向上のため区の防災課による転倒防止装置展示など町会員一体となって行いました。

このような行事を行い安全で安心な住みごこちの良い町会を目指して活動をしています。



チャリティーイベント「とどけ元気」



■ 歴代会長

- 初代 鶴巻 嘉男（昭和21年1月～昭和49年3月）
- 二代 宇都木仁平（昭和49年4月～昭和51年4月）
- 三代 小宮 米吉（昭和51年5月～昭和62年5月）
- 四代 林 靖（昭和62年6月～平成4年4月）
- 五代 増田 栄一（平成4年5月～平成8年7月）
- 六代 増田 克己（平成8年8月～平成24年5月）
- 七代 岩金 靖夫（平成24年6月～）

町会のあゆみ

昭和21年頃、初代鶴巻嘉男氏により町会の基礎が作られ、焼け跡に戻った人々と協力して、現在の街の発展を見た。妻恋神社を町内にもち、昭和40年の地名変更までは江戸時代から続く妻恋町という町名であったため町会名も「妻恋会」とした。

戦争直後は30世帯ぐらいの町会であったが、その後ビル街となり、会社事務所などが増え、最近ではマンションが8棟にもなり、古き良き職人街も昔の夢となってしまった。現在では、法人会員、マンションの住民を含め、350名を越す世帯となっている。

妻恋神社の氏子町会として、千代田区の

外神田同朋町会とともに、年間を通じ神社をお守りし、年末年始には、初詣の方々の接待を続けている。境内の掃除も婦人部の皆さんにより続けられている。神社にいと、時には、往時の町会の住人だったという方が訪ねてこられ、懐かしく昔話をお伺いすることもある。

町内の親睦を図るため、毎年8月末には、神社境内で納涼大会を開き、企業からの参加も増え、150名以上の方が狭い境内を埋め尽くす。また秋には、親睦バス旅行を行い40名ほどの町会員が参加している。



妻恋神社

■ 歴代会長

- 初代 石塚金之助（昭和23年～昭和33年7月）
二代 内山己之吉（昭和33年8月～昭和39年3月）
三代 石塚 とき（昭和39年4月～昭和60年4月）
四代 原 フサ（昭和60年5月～平成6年4月）
五代 漆原 徳光（平成6年5月～平成8年4月）
六代 原 一雄（平成8年5月～）

町会のあゆみ

湯島台地の東南の端、妻恋坂の仲程を北へ立爪坂（別名芥坂）を上った高台に、江戸時代より続いた大きな味噌醸造所「伊勢利」があった。この台地は関東ローム層で地下室にて「糶」を製造するに適しており、本郷湯島は江戸の初めよりみその特産地として有名であった。

戦後、その地が漆原氏の屋敷となり昭和23年から再開された両国の花火大会には、広い芝生の庭が解放され、近隣の人達が打ち上がる花火に酔いしれていた。

そこも、平成18年に三井不動産による大きなマンションが建てられ、3%の提供敷地に区立清水坂上児童遊園が設置、春にはつつじ・初夏にはアジサイの花を咲かせている。

現在の東都文京病院は、昭和12年、日立製作所の創業者小平浪平氏が、豪壮な2

階建洋館を建てたが空襲で焼失。昭和35年、日立製作所創業50周年記念事業の一環として「小平記念東京日立病院」が開設され、地域医療に貢献されたが、今春医療法人大坪会にそのまま継承された。

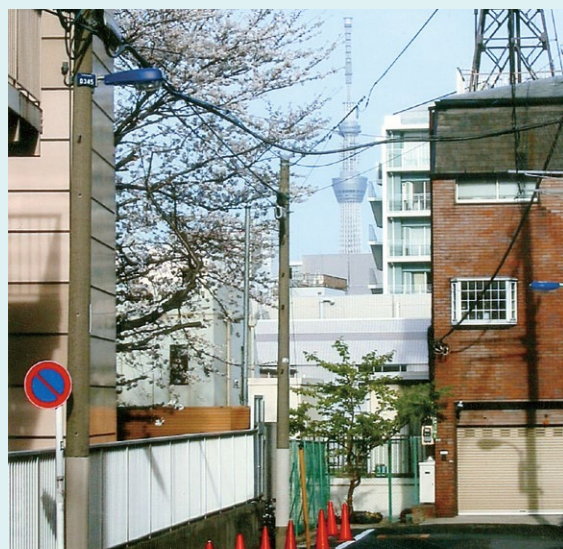
当町会は昭和23年、旧湯島三組町会より分離し結成された小さな町会である。現在正会員18世帯・準会員（マンション住人）で成り立っている。

町会行事は正月の年賀品くばり・5月町会総会・湯島天神まつり・6月防災訓練・9月敬老の日祝い品・11月文化の日に美術鑑賞券を贈呈。

週1～2回、児童遊園の管理清掃を行う。



清水坂上児童遊園にそろう現町会役員



昔は両国の花火、今は東京スカイツリー

■ 歴代会長

- 初代 海老沼善一郎（昭和22年4月～昭和30年3月）
- 二代 平井 康之（昭和30年4月～昭和37年3月）
- 三代 木津 直次（昭和37年4月～昭和42年3月）
- 四代 栗原兼太郎（昭和42年4月～昭和47年3月）
- 五代 大塚 由松（昭和47年4月～昭和51年3月）
- 六代 平井 信男（昭和51年4月～平成10年3月）
- 七代 鎗田 精康（平成10年4月～）

町会のあゆみ

国道17号（中仙道）を挟んだ当町会は戦後間もない昭和22年湯島26町会として発足、昭和30年に湯島二丁目町会を経て、地番変更により昭和40年に現在の本郷三丁目南部会と改めました。当初は職人の町として人口も多く、従って子どもの数も著しく多かった時代でした。町会行事も子ども中心で祭太鼓などは近隣では一番大きいのを作ったものです。

現在では、ビルの高層化により人口も減り町会活動も人的面で苦労が絶えませんが各官庁への協力と、近隣同志の協力は惜しみなく行っております。殊に清掃事業はタ

バコ禁止地区への協力、町会として毎月1回多数の参加により続いております。最近では3・11東日本大震災教訓による防災意識が高まり、まだまだ不十分ではありますが力を入れております。

町会行事としては、春秋の交通安全運動、防犯、歳末警戒、防災演習、日赤への協力、ラジオ体操、湯島神社祭礼、町内レクリエーション、さつき会への協力、各種寄付活動等実施しております。

又、町内にあります湯島幼稚園、順天堂医院、サッカー協会と連携し、諸行事への参加も行っております。



湯島神社祭礼



清掃事業

本郷三丁目金助町会

● 昭和29年5月結成

■ 歴代会長

初代 久水 良重（昭和29年6月～昭和32年5月）
二代 山崎 文蔵（昭和32年6月～昭和36年5月）
三代 齊藤 保（昭和36年6月～昭和38年5月）
四代 池本 喜三（昭和38年6月～昭和44年5月）
五代 松谷俊太郎（昭和44年6月～昭和49年5月）
六代 渡辺 嘉男（昭和49年6月～昭和54年5月）
七代 和久井源太郎（昭和54年6月～昭和57年5月）

八代 倉田 耕吉（昭和57年6月～昭和61年5月）
九代 久我 友吉（昭和61年6月～平成3年5月）
十代 田中 利政（平成3年6月～平成7年5月）
十一代 瀬戸 一郎（平成7年6月～平成14年5月）
十二代 三ヶ尻延男（平成14年6月～平成20年5月）
十三代 松谷 豪（平成20年6月～平成24年5月）
十四代 三ヶ尻祥二（平成24年6月～）

町会のあゆみ

徳川時代元和4年7月、徳川家の旗本小人頭であった牧野金助政成の所領地3700坪の跡地であったため、その旧縁により元禄9年本郷金助町と称したのが、約400年前である。

明治16年現在の町会の前身である同和会が設立され、その後明治44年に本郷金助町と改称、更に昭和29年に本郷三丁目金助町会と改称され現在に至っている。

現在、町会の活動として、7の部があり、それぞれ活発に事業を行っている。

年始には賀詞交換会、春には観劇会、春の全国交通安全運動街頭出動、新入学児童へのお祝い配布。

初夏には町内清掃、湯島天満宮祭礼及び子供広場。

夏期休暇中にはラジオ体操、納涼大会。
秋には、秋の全国交通安全運動街頭出動、敬老の日のお祝い配布。

冬には餅つき大会、町内清掃、歳末警戒と四季を通して行事が実施されている。
更に毎月資源回収を有志により実施され、又、金寿会は年2回の誕生日を始め、各行事への協力、参加などが実施されている。



歳末警戒



町内清掃



もちつき大会

■ 歴代会長

初代 壺井 光好（昭和28年～昭和31年）
二代 打越 徳寿（昭和31年～昭和43年）
三代 金原 四郎（昭和43年～昭和53年）
四代 岩永 彦志（昭和53年～昭和63年）

五代 牧口 重康（昭和63年～平成11年）
六代 岡崎 泰三（平成11年～平成15年）
七代 佐野 恒男（平成15年～）

町会のあゆみ

春木会の沿革

当会は昭和27年6月旧春木町一丁目、二丁目、三丁目を地域として「明るい町の建設」をモットーに多くの方々の協力により発足し、28年8月に結成されました。

以来、平成25年には設立60周年を迎えました。また平成15年6月には、50周年を記念して、記念誌“春木会50年の歩み”を発行し、会員に配布をしました。

春木会の町並み

昭和30年代後半からの日本経済の高度成長に伴い、商業ビルやマンションの建設が進み現在もなお継続しています。当町会の大きな特徴として、文京区の地場産業の一つでもある医療機器産業のメッカとして近隣町会と共に、全国でも有名な地域として、繁栄をしてきました。

春木会の組織と活動

会長、副会長、会計の他、総務部、環境衛生部、防火防犯部、公害防災部、交通部、青少年部、女性部で活動しております。

他に60才以上のお元気な高齢者の集りである春木向寿会も活発に活動しています。

年間の主なる行事としては、正月の4日にバスをチャーターしての十社廻り、浅草寺を初め、川崎大師、明治神宮等に寄り、湯島天満宮にて解散する1日を初詣だと初顔合せを兼ねた伝統行事として代々引き継

がれています。もう一つ春木会ならではの行事に毎年3月のお彼岸に、その年に亡くなられた方々の遺徳を偲ぶ物故者慰霊祭を40年近く行っており、区内でも類をみない行事です。又、平成23年には戦争で消失した御神輿を造営してから30年を迎え8月に町内渡御を行い、湯島天満宮において式典を催行しました。お祝いとしては、新入学児童、成人、敬老等で記念品を贈呈して、お祝いをしています。この他、夏のラジオ体操と共に子供広場を開催し、消防署の協力の下、大人の方々にも防災訓練を兼ねて、参加して頂いています。又、年末には12月25日より1月の中旬まで会員の自主的な参加により、どの町よりも永い間、夜警巡回して町内を見守っております。他に毎月第3土曜日に欠かさず古紙回収を行い会員相互の共助の一つにしています。

今後も毎月の役員会と共に新しいイベントと伝統行事を織り交ぜて行うよう会員一同、力を合せて町を盛り上げている昨今です。



春木会創立50周年記念祝賀会

■ 歴代会長

初代 生地龍太郎（昭和20年1月～昭和22年4月）
二代 和田健太郎（昭和22年5月～昭和36年5月）
三代 服部 仙順（昭和36年6月～昭和39年5月）
四代 倉本 肇（昭和39年6月～昭和43年3月）
五代 服部 仙順（昭和43年4月～昭和44年4月）
六代 高麗^{ユウマ} 梅吉（昭和44年5月～昭和50年5月）

七代 杉浦芳四郎（昭和50年5月～昭和56年4月）
八代 畑中 正一（昭和56年4月～昭和62年4月）
九代 鈴木 國治（昭和62年4月～平成8年4月）
十代 國分 棟一（平成8年4月～平成12年4月）
十一代 鷺田 勇（平成12年4月～）

町会のあゆみ

明治4年我元町、西側の白山通り小石川沿いに、日本帝国陸軍東京砲兵工廠が新設、そこで働く大勢の人々がいて、元町側で住む人達も多くいた様です。そんな事から白山通りは勿論、横丁の通りにも、魚屋、米屋、八百屋、洋服屋、酒屋、銭湯、床屋、駄菓子屋、などなど大変活気がある町だったそうです。その後砲兵工廠が九州へ移転、昭和12年に後楽園球場が出来て、野球で賑わう半面、地域での活気は薄らいできました。

昭和16年第二次世界大戦に突入、18年頃には戦禍も厳しく生活物資も乏しくなり配給制で、又警防団を中心に隣組も警戒体制をとっていました。20年4月13日の夜から、14日に掛けて、東京大空襲、住み慣れた町並を焼夷弾の投下によって、焼き尽くされました。

昭和20年8月15日終戦を迎え、廃墟と化した中、徐々に人々が戻られ復興の槌音もする、22年頃「元二親和会」と名称を定め町会長を初め組織作り、外灯や、物資食料不足などの難題を乗り越え、30年頃には生活も安定し、新年会や祭、日帰り旅行なども行なわれる様になりました。

昭和38年には待望の町会事務所2階建、100㎡を新築、総会や役員会、夜警詰所又地域の会合に大変重宝されています。昭和45年青年部、平成元年婦人部結成される。

平成19年三河稻荷神社御遷座400年祭が行われ、この年に合わせ大人神輿を新調、青年部を中心に近隣の応援を得て元一睦会の神輿と共に盛大な大祭となりました。

又恒例の納涼大会は今年で15回目8月下旬に道路を借りて、青年部、婦人部の協力と、成澤区長を初め警察署、消防署、区民部のご来賓の皆様にご参加を頂き、地域の事、振り込め詐欺、地震災害等の注意心得の話の頂き、近隣町会、会員の皆様と飲食を共にし300を越す人々と地域の絆を深めています。

平成23年3月、区の地縁法人の認可を会員皆様の協力で取得することが出来、又平成25年2月、町会会館の土地所有権を個人から法人へ移転登記する事が出来ました。

又地域防災の合同訓練を行って来ましたが、更に町会独自の訓練も進めたい。

終りに町会のあゆみを振り返る時、平和である事に感謝したい。



三河稻荷神社大祭 神酒所前で集合写真（平成24年6月3日）

■ 歴代会長

初代 山崎 惣吉（昭和21年2月～昭和32年7月）
二代 栗原 貞夫（昭和32年8月～昭和33年2月）
三代 東野 公一（昭和33年2月～昭和49年2月）
四代 片山 満吉（昭和49年2月～昭和55年2月）
五代 新井 正浩（昭和55年2月～平成2年2月）

六代 荒井 豊三（平成2年2月～平成10年2月）
七代 谷合初太郎（平成10年2月～平成17年2月）
八代 種田 守宏（平成17年2月～平成24年2月）
九代 浅川 昇（平成24年2月～）

町会のおゆみ

本郷弓一町会は旧文京区弓町一丁目に立地する。江戸時代初期から『御弓町』と称される武家屋敷の町である。その名は江戸城の鬼門の方角に当たるので、弓場を設けて厄除けとしたことに由来する。のちに東叡山寛永寺が建立されたため、弓場は他所に移し、町名だけが残った。

『本郷区史』によれば、「今の弓町一、二丁目の地域は延宝中頃まではその大部分が御先手組大縄地であったが、元禄12年の大火で類焼したのち…宝永元年（1704）…他の旗本屋敷となった」とある。その町内には、昭和14年ごろまで武家屋敷の黒門があり、東大の赤門と好一对と言われた。ちなみに今、大クスノキのある場所は『甲斐庄喜右衛門』という『楠正成』の後裔とされる旗本の屋敷跡であった。そして戦後町の民生化にともない、昭和21年2月に弓町一丁目町会から弓一文化会と名称を変え、平成25年11月には法人化されて、本郷弓一町会となった。

時代の流れの中で武家屋敷の並んだ弓町

も住宅地へと変貌していった。中には1区画300～400坪という大きな区画も多くあったが、そういった大きな区画が高度経済成長期にいくつもマンションへと変わっていった。一時は落ち着きを見せた街並みにも平成になり、再びマンション化の波がやってきた。

かつて、当町会には戦前より町会専用の会館がありさまざまな集会や行事に利用されてきた。その会館は戦災で焼失してしまったため、戦後11年の時を経たのち、新たに建設された。

長年町会の行事や祭礼また日頃の役員会に使用してきた町会会館は、近隣の再開発計画によって現在、新たに建てられたマンションの1階に入っている。

マンションが増えるという事は、町会の人口が増えるという事であり、歓迎されることである。しかし、同時に従来通りの町会運営ではうまくいかないことも生じると予想される。今後は新しい会館を拠点に時代に即した町会として活動をしていきたいと願っている。



婦人部 例会 平成18年11月



櫻木神社 祭礼 平成17年9月
旧町会会館前にて



町会レクリエーション 平成25年6月
御岳溪谷にて

■ 歴代会長

- 初代 小山九十九 (昭和28年4月～昭和38年3月)
- 二代 小野沢 清 (昭和38年4月～昭和55年3月)
- 三代 波多野鑿吾 (昭和55年3月～平成元年5月)
- 四代 増田 春吉 (平成元年5月～平成2年4月)
- 五代 拓植 清一 (平成2年5月～平成6年4月)
- 六代 丸山 英雄 (平成6年5月～平成10年4月)
- 七代 諸岡 健至 (平成10年5月～)

町会のあゆみ

当町会は以前元町1丁目でしたが、昭和40年4月に住居表示実施に伴い本郷2丁目となりましたので、本郷二丁目元一会となりました。元町は、『本郷元町書上』によれば、ここは御中間大縄拝領屋舗であり、家康公入国に従った三河出身の共衆が、慶長10年(1605)三河町駿河台辺に拝領地を与えられ、元町付近の御弓同心組屋敷が、小石川大塚辺へひき払った跡へ、元和4年(1618)三河町駿河台から引替拝領の形で移ったという。のち武家地として、幾度も変遷があったが、町屋になる以前から元町の名称があり、そのまま伝えられたという。と記されている。

現在当町会内では、三河稲荷神社を崇敬するグループと湯島天満宮を崇敬するグループが分かれています。お互いが協力し合って祭礼が行われている。その他、第3代町会長の波多野氏が毎月、町内の広報誌

を発行してから、30余年になりますが今日現在も継続発行しています。その他の行事として、1月は、成田山の初詣、2月には、本郷行灯まつり、5月、6月にかけて、両神社の祭礼、7月は、ラジオ体操、8月は、子どもまつり、9月には、敬老祝い、秋には、親睦バス旅行、その他学童の登校日には、町内2か所でスクールガードを行い、毎週金曜日には、町内を災害抑止のためパトロールを行っています。防災救助訓練・避難所運営訓練も毎年熱心に行っています。



1月第2土曜日には成田山新勝寺に初詣



5月・6月には湯島・三河両神社の祭礼



秋には天気の良い日曜日を選び親睦バス旅行

■ 歴代会長

初代 高野善之助（昭和31年4月～昭和33年5月）
二代 熊谷 新次（昭和33年5月～昭和41年5月）
三代 高木 利一（昭和41年5月～昭和45年5月）
四代 前田 康晴（昭和45年5月～昭和53年5月）
五代 奥平正一郎（昭和53年5月～昭和55年5月）
六代 新井 光雄（昭和55年5月～平成2年5月）

七代 河内 武之（平成2年5月～平成8年5月）
八代 利根川包吉（平成8年5月～平成12年5月）
九代 熊谷 英男（平成12年5月～平成16年5月）
十代 関口 龍市（平成16年5月～平成22年5月）
十一代 樋口 善勝（平成22年5月～平成24年5月）
十二代 大谷 益弘（平成24年5月～）

町会のあゆみ

戦後の町会の空白時代も指令解除で新しい町会設立の気運が高まってきました。先ず町を明るくする手段として旧睦会が中心となって神輿の新調を計画し、多くの方々のご芳志を得て翌年には現在の大小神輿太鼓等が新調され盛大に祭りが行われました。この神輿の集まりが母体となって、翌年には戦後の新しい町会の設立総会が迎えました、昭和31年4月15日であります。そして各時代の役員 노력により町会の基礎は固められ現在のような立派な町会となりました。しかしながら、一方では世の中の移り変わりと共に古い街並みは近代化していきますが、この町の人々の親しみ深い風情や人情は昔のままであります。

町会の行事や事業も活発に行われ、区や警察消防関係の行事にも積極的に参加し、

防犯運動に、また春秋の全国交通安全に、或いは火災予防運動に、防災訓練にと目覚ましい活動が目立っています。

町会独自の行事としては、1月15日の成人の日には記念品を贈ってその前途を祝い、4月には新入学進学児童に記念品を贈って激励し、地域のより良い環境づくりに協力し、9月には敬老祝を贈って喜ばれ、神社の祭礼には積極的に参加、当町会独自の行事を行うなど目覚ましく、レクリエーションでは大勢の人に大変喜ばれています。また年末には歳末夜警を行って、町会の信頼度を深めています。

このような各種行事が順調に行われているのも、役員を始めとして、青年部、婦人部、また若手婦人層の積極的な協力があればこそで、人の和を軸とした若さ溢れる町会といえます。



御祭礼（平成24年9月22日）



■ 歴代会長

- 初代 蓮江 健吉（昭和24年4月～昭和37年3月）
二代 木津 信輝（昭和37年4月～昭和59年3月）
三代 若井 佐吉（昭和59年5月～平成15年5月）
四代 小澤 太郎（平成15年5月～平成21年5月）
五代 金井 弘海（平成21年5月～）

町会のあゆみ

戦後、近隣諸町会と連合で本郷第一町会を結成したが、追々地元に戻ってきた人々との協力によって、本郷二・三丁目町会を昭和24年3月に設立し、現在に至っている。

町会活動を行うにあたって、町会の組織を防災、警察、消防、学校関係等の分野ごとに分けて、副会長が分掌している。また、役員には若手の会員を登用し、組織の活性化に取り組んでいる。

婦人部では、お祭り、新年会、町会員の葬儀の手伝い等の地域の下支えとなる活動を行っている。

町会の行事としては、新春の新年会、秋に行われる桜木神社の祭礼や、75歳以上の方に町会から記念品を贈呈する敬老祝

や、新成人を対象とした成人祝、新入学児童祝を行っている。

現在、最も力を入れているのは、防災・安全のまちづくりの推進である。

毎年、年末警戒のための夜警詰所を設置し、町内挙げて防犯・防火の意識の向上に取り組んでいる。さらに、町内をもとより、近隣町会を含めた地域として、街の安全を守るために区や警察の協力を得て、防犯カメラを設置することに取り組んでいる。

町会の発展のためには、若い人たちの活躍が必要であることから、町会運営に関わってもらうとともに、新しく町内のマンションに引っ越してきたファミリー層に町会の会員になってもらうことが必要である。



桜木神社のお祭り

■ 歴代会長

初代	林 皆二 (昭和30年～昭和35年)	七代	秋田 国助 (平成元年5月～平成6年4月)
二代	市河作之輔 (昭和36年～昭和39年)	八代	小林 源三 (平成6年5月～平成11年4月)
三代	小林 忠信 (昭和40年～昭和41年)	九代	吉川 薫明 (平成11年5月～平成15年4月)
四代	椎橋 健一 (昭和42年1月～昭和54年1月)	十代	金子 文男 (平成15年5月～平成17年10月)
五代	安池晴之助 (昭和54年1月～昭和58年12月)	十一代	湯浅 欣誉 (平成18年5月～平成25年5月)
六代	池田富士男 (昭和59年4月～平成元年4月)	十二代	池田 義久 (平成25年6月～)

町会のあゆみ

本一町会は御茶の水駅に近く文京区の南玄関に位置しております。徳川家康公が江戸幕府を開くと、武器庫の街として竹町と弓町が弓矢及建築資材の基地とし誕生した。

明治まで加賀前田藩を初め大名屋敷が多く“かねやすまでは江戸の内”と職人の町として大いに繁栄した。関東大震災害以降は、利便性に優れた場所の為、順天堂大学病院、東京医科歯科大学病院、東京大学病院等があり、関連して医療機器の商店が軒を連ね、また関連出版社が多く、オフィスビル、マンション等町内には7棟の多くとなる反面古くからの住民は減少する一方です。

町会活動は8班制で①明るく②楽しい③安心安全の街造りに努力中、春と秋の交通安全運動、地域の桜木天神祭、日帰り旅行、観劇会が主な行事で友好の絆と輪を拡げて

います。東日本大震災を機に区役所、本富士署、本郷消防署等の指導の下に、近隣7町会及旧元町小学校避難所を借りている順天堂病院とが数度の対策を立て防災訓練を実施しました。住民にとっては防災意識が高揚し、連帯感を深める機会となったと信じています。

当町会の歴代会長は初代林町会長、市河思誠堂社長、小林忠信、池田富士男、椎橋健一、秋田国助、小林源三、吉川薫明、金子文男、湯浅欣誉と続き、現在の町会長は池田義久であります。

区の憩いの地として隣接する水道公苑は、バラを主体として四季の花が咲きみだれ、池と水の流れが年間を通して多くの方々を楽しませている。又文化遺産である元町公園は古くから桜の名所で、昔は富士山が一望でき、ラジオ体操も行われていた。

区町会連合会の発展を切望しております。



町会日帰り旅行 横浜三溪園にて



町会の祭りを盛り上げる湯浅会長



2007年 桜木神社宮入

■ 歴代会長

初代 柏崎 貞雄（昭和26年4月～昭和27年3月）
二代 仁科 将（昭和27年4月～昭和33年3月）
三代 小里 秋男（昭和33年4月～昭和37年3月）
四代 柳沢 治実（昭和37年4月～昭和40年3月）
五代 種田 武夫（昭和40年4月～昭和42年3月）

六代 金山 健二（昭和42年4月～昭和44年3月）
七代 森田 賢（昭和44年4月～昭和50年3月）
八代 天野 明（昭和50年4月～平成11年3月）
九代 金山 恵一（平成11年4月～）

町会のあゆみ

昭和26年4月戦前からあった本郷四丁目町会がそのまま復活、当町会がスタートした。東に本郷通り、南に春日通りに面し菊坂通りをはさんで私共の町会は存在している。

昭和40年行政区画の変更（町名変更）によって、当会は菊坂通りを境にして本郷4丁目と本郷5丁目とに分断された。その際、伝統と歴史を尊ぶ会員の「同じ4丁目の住人」との意識で本郷同四会と町会名を新たにした。

最近の10年をふり返ると、2つの大きな社会現象が見られる。1つは、少子高齢化であり、当町会もその影響を受けている。会員220のところ70才以上の敬老当該者が100名を超えるのに新入学児童は5名以下の状態が10年以上続いている。災害、事故等について老人を中心とした対策が求められている。次に、マンションの急増も問題を提起している。環境の変化に加えて町会員の融和がはかりにくいことである。プライバシーの異常な尊重が原因かも知れない。

今後は社会の変化につれて町会のあり方を考える必要があるようだ。

町会の主な年中行事

定時総会と懇親会
春の交通安全運動
町会員リクリエーション
（小旅行・食事会・見学会など）
防災訓練
敬老御祝
桜木神社祭礼
秋の特別警戒
初薬師（本郷薬師）
成人御祝
新入学児童御祝
役員会（毎月1回）



本郷薬師

■ 歴代会長

初代 渡辺 一雄（昭和25年4月～昭和27年3月）
二代 諸井 貫一（昭和27年4月～昭和29年3月）
三代 種田 清一（昭和29年4月～昭和38年3月）
四代 岩崎雅太郎（昭和38年4月～昭和45年3月）
五代 古畑 庄吉（昭和45年4月～昭和52年3月）
六代 坂田 實（昭和52年4月～平成4年3月）

七代 永井 久信（平成4年4月～平成10年1月）
八代 坂口 哲也（平成10年1月～平成18年3月）
九代 栗田 洋（平成18年4月～平成20年3月）
十代 蜷川 晃（平成20年4月～平成25年4月）
十一代 枇杷阪弘且（平成25年5月～）

町会のあゆみ

当町内には、文京区の施設で、ふるさと歴史館、真砂中央図書館、男女平等センター、真砂児童遊園、本郷小学校等がある。

ふるさと歴史館前通りを本郷の文化ゾーンとして、特別に水銀灯8灯を区で建てた。

マンション建設、オフィスビル建設等で、町全体が大きく変貌している。

歴代町会長を始め役員、町会員全員で一步一步と近代化した町づくりに専念してきた。町内に於いても、昭和50年役員及び町会員の努力により設備の整った町会会館を建設し、上真砂町会会館として町会員、他の方々にも開放し地域の活性化に協力している。町会会館には1階に祭り、模擬店、イベント、餅つき等の諸道具を格納し、2階は集会の場としている。なお、当町会は法人化の認可を受けている。

（組織）

当町会は34の班に分けて、班長は回覧、区報等の配布、町会費の集金等の実務を担当している。

総務は町会行事を担当。

民生部：赤十字募金、赤い羽根募金、歳末助け合い募金を担当。

文化部：敬老の日に73才以上の方に記念品として、クッキー等を贈呈し、お祝いしている。

交通部：春秋の交通安全運動に協力。

防災部：防災訓練、年末夜警を実施。

防犯部：防犯ポスター等で周知、年末夜警をテントを設置して、防災部と共に夜警にあたる。

青少年部：新入学児童と新成人にお祝いの記念品をお届けする。納涼縁日、餅つき大会、模擬店等子供達へのイベントを実施。

町会リサイクル：元会長が資源回収活動を解散した婦人部より引き継ぎ実行している。

伝統90（大正13年創立）有余年我が町会は世帯数740余、文京区本郷の丘の上にある良き町と成る様住民が共に助け合い、生活環境の向上、発展を図り、良好な町の維持を続けたい。



祭りの一コマ

■ 歴代会長

初代 重富 豊実（昭和23年～昭和30年）
二代 松下 徳正（昭和30年～昭和47年）
三代 高橋雄次郎（昭和47年～昭和53年）
四代 武井 義雄（昭和53年～昭和63年）

五代 小林喜一郎（昭和63年～平成14年）
六代 鈴木 誠（平成14年～平成26年）
七代 掛布 外一（平成26年～）

町会のあゆみ

組織とその活動

町会長のもと5部に分れ部は数班に分れて各部長、班長は町会活動の通達等率先してその任に当る。なお真砂アパート自治会は特別会員として参加され格別な協力を自治会長、副会長、会計部長がされている。

- 副会長数名 会長の補佐。
- 会計 町会一般会計担当。
- 特別会計 祭礼に於ける会計一切。
- 文化部
- 防火防災部
- 衛生部
- 婦人部

等の専門部は夫々の町会活動の企画実行実習訓練参加等を担当する。部長任命は町会長指名諒解とする。但し凡ての役職は留任を可とする。

行事、事業

■ 役員会、月例役員会を本四集会室に於て月1回開催し諸役所よりの伝達事項、必要の事項への意見集約をする。但必要の応月2回も可。総会年1回。

■ 祝金、祝品進呈

イ、成人式 ロ、入学式 ハ、敬老日町会員と同居する子、孫、兄弟を原則としている。部長の推せんに依る。

■ バス旅行会

秋バス旅行を企画実行し会員各位の親睦を深める。但下真砂クラブ（会長荒木一作氏）と共催とする。

■ 桜木神社祭礼参加

9月下旬、桜木神社大祭に参加。主に町内祭礼を、田町町会、中真砂町会と合同し、宵宮神輿渡御、子供みこし、山車町内渡御、夜店開店等例年賑々しく町内祭礼を実行している。

■ 防災訓練・夜警

消防署、消防団主催の訓練には会員の積極的な参加をすすめる。夜警は例年12月29、30日夜町内詰所に詰め実施する。役員全員が毎年担当参加する。

■ 防災倉庫、町会倉庫

清和公苑入口道路傍に文京区提供の防災倉庫1棟、防災諸道具一切を収納する。他に公園菊坂寄りに町会倉庫、ここには町内祭礼実施一切（みこし等）を収納、更にテント、机等防災用具も収納されている。



平成20年5月18日 坂東16番水沢観世音

中真砂町会

● 昭和26年8月 清和会(清和町会)結成
平成元年4月 現町会名に変更

■ 歴代会長

初代 雨宮 文治 (昭和26年8月～昭和36年9月)
二代 鳥原 茂代 (昭和36年10月～昭和42年10月)
三代 塩谷とし子 (昭和42年11月～昭和46年1月)
四代 渡辺 ゆき (昭和46年2月～昭和46年9月)
五代 野村 春子 (昭和46年10月～昭和51年3月)
六代 五十嵐成久 (昭和51年4月～昭和60年3月)
七代 牧野 英夫 (昭和60年6月～昭和61年3月)
八代 武田 二一 (昭和61年4月～昭和62年3月)
九代 平高 正雄 (昭和62年4月～昭和63年3月)

十代 山口 家光 (昭和63年4月～平成元年3月)
十一代 近藤延一郎 (平成元年4月～平成2年3月)
十二代 船越 彬 (平成2年4月～平成3年3月)
十三代 鳥原 正憲 (平成3年4月～平成5年3月)
十四代 野村 正明 (平成5年4月～平成7年3月)
十五代 山口 家光 (平成7年4月～平成15年3月)
十六代 山田 晴久 (平成15年4月～平成21年3月)
十七代 荻原 信平 (平成21年4月～)

町会のあゆみ

地域の歴史

本郷台地の南西端に位置する我が町会地域は、江戸時代に高崎藩松平右京亮の中屋敷であり、明治2年に真砂町と名付けられたが町並みはごく一部で、一帯は右京山とそれに続く右京が原の草原でした。陸軍省、のちに東京帝国大学の付属用地として長く空地になっており、樋口一葉の日記や、富田常雄の小説「姿三四郎」の決闘の舞台としてその名がみえます。

その地を東京市が払い下げを受け、大正10年から大正14年、3期に亘って46棟75戸建設されたのが東京市営真砂町住宅で、現在の中真砂町会の前身です。周辺には住宅のほかに、真砂町小売市場（大正8年、26店舗、文京区設真砂市場の前身）、公衆食堂（大正15年、区民センター裏）、单身者用集合住宅・清和寮（昭和6年、本郷四丁目アパートの前身）が、東京市の社会事業関係施設としてこの頃に設営されました。

また、住宅地の中心にある公園には井戸が配され、当初より遊び場として利用され

ていたが、戦災で荒廃し、住民の署名運動により、昭和26年に東京都立公園として開園したのち文京区に移管され、昭和56年から57年にかけて改修されています。その清和公園の斜面一帯に染井吉野桜が植樹されたのが今では大木となり、知る人ぞ知る花見の名所として、町会のシンボリック存在となっています。

町会の主な事業内容

防犯、防災、環境保全、情報周知、等が町会の果たすべき役割であり、その大前提である健全なコミュニティの維持、発展に注力した歴代会長の功績が引き継がれています。

都営本郷4丁目アパート（元清和寮）に地域開放型集会室の設置を要請、近隣町会、アパート自治会と運営していること。一時衰退していた地元桜木神社例大祭を、近隣町会の協力で町会の主要行事に復活させていること。旧住民と新住民の積極的な交流を図っていること。などが挙げられます。



桜木神社例大祭



清和公園桜まつり

■ 歴代会長

初代 三浦 銀蔵（昭和23年～昭和53年3月）
二代 猪尾 善典（昭和53年4月～昭和60年）
三代 榎 栄治（昭和60年～平成元年6月）

四代 栗本 安朗（平成2年4月～平成20年3月）
五代 伊藤 孝（平成20年4月～）

町会のあゆみ

現在の田町町会は昭和23年からですが、それ以前の歴史は、町会の備品の中で、櫻木神社祭礼用の三宝に「文久三年 本郷丸山菊坂田町 井筒屋伝七」の文字が有る事から、町会の形態は変わっても、江戸時代から「田町」という名の組織が存在していたという事がわかります。

昭和59年には現在も活用しております「田町町会会館」を多くの会員から浄財寄進を募り、建設致しました。

三代会長、榎氏の発案で、櫻木神社祭礼用の備品の充実をと、大人用、子供用ともに祭絆纏を100枚以上揃え、祭礼用幟旗（最近ではよく見かける様になりましたが、近隣町会で当町会が一番早く取り入れたと思います）、カキ氷の機械、綿菓子機械、焼きそば用鉄板、おでん鍋等を、毎年祭礼運営費を切り詰めて、余剰金を残し、購入して参りました。現在でも祭礼の会計は、町会と別会計で、すべて奉納金で賄われ、運営しています。

榎氏の懸案であった、大人神輿購入は、榎氏急逝の為、生前には実現は出来ませんでした。4代会長栗本氏が遺志を受け継ぎ、平成2年、浄財を募り、現在の2尺の大人神輿を新調する事が出来ました。

十年程前からは、近隣の下真砂町会・中真砂町会と3町会合同で祭礼を行い、大人神輿、子供神輿・山車巡行とも土曜日には100人以上の参加者で、大変賑やかに行っております。

また、防災訓練等も、町会の壁を取り払って、3町会で行い単一町会で出来ないことも、協力し合って仲良く活動をしています。

また、菊坂町会も加えた4町会で、本郷4丁目集会室の管理運営も行っております。

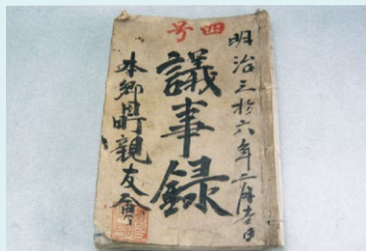
当町会の組織の中で、最大勢力は老人会「田町みのり会」で現在50数名の会員数で宮原会長を中心に、町内清掃、交通安全の交差点での旗振り等ボランティア活動の他にも、コーラス、カラオケ、旅行会等親睦を深め活動しております。

又、町会役員を中心とした親睦団体「金曜会」も町会活動の中心として、年1回の親睦旅行、夜警、火の用心の夜回り等にも参加しております。

青年部は小坂橋部長を中心に十数名、マンション居住者や、近年田町に越してきた人も多く、真砂、二中を知らない人が半数を占める新しい勢力です。今までの古い町会の考え方ではない、新しいパワーも加わりこれからの活躍が期待されます。



明治時代議事録保管箱



明治36年本郷田町親友会議事録



三ヶ町合同神輿宵宮渡御

■ 歴代会長

初代 佐藤 忠蔵（昭和23年4月～昭和30年3月）
二代 本田 勝朗（昭和30年4月～昭和32年3月）
三代 宇野 孝夫（昭和32年4月～昭和34年3月）
四代 原口 鍋吉（昭和34年4月～昭和36年3月）
五代 風間 清吉（昭和36年4月～昭和46年3月）
六代 藤城銀太郎（昭和46年4月～昭和51年3月）
七代 丹羽 源司（昭和51年4月～昭和54年3月）
八代 岩下 重雄（昭和54年4月～昭和62年3月）

九代 中村 勉（昭和62年4月～平成5年9月）
代行 牧野 匡充（平成5年9月～平成6年3月）
十代 牧野 匡充（平成6年4月～平成15年3月）
十一代 坂井 弘幸（平成15年4月～平成20年3月）
十二代 太田 泰（平成20年4月～平成23年3月）
十三代 大久保幸信（平成23年4月～平成24年1月）
代行 倉島 英二（平成24年1月～平成24年3月）
十四代 倉島 英二（平成24年4月～平成26年9月）

町会のあゆみ

■ 菊坂町会の活動

現世帯数450 4月入学祝・募金運動・春の交通安全運動・5月総会・田植参加（有志）・6月環境衛生運動・7月納涼ビアパーティー・8月夏休みレクリエーション・9月敬老の日・防災月間運動・防火訓練・櫻木神社大祭・10月秋の全国交通安全運動防犯運動・11月防火防災運動月間・稲刈参加（有志）・12月年末助け合い運動・少年少女夜警パトロール・1月元旦櫻木湯島神社初詣（有志）・成人夜警パトロール・新年顔合わせ・餅つき大会・成人祝い・2月初午祭（火状稲荷）・3月防犯運動・次年度総会準備等を基本に活動。

《菊坂町会の共同体について》

● 武州豊島郡狭間田（ハケタ）領本郷丸山

片町と往古呼称。長祿の菊栽培は、有名です。飛鳥時代の5戸1保から流れを継ぐ五人組へ幕府は1602（慶長7）横行する辻斬り対策に武家屋敷の辻番・町人会自身番や木戸会所の設置を示唆。寛文11年の新板江戸外絵図には菊坂入口、現在中村蕎麦やと柴田商店（角店）位置に在りました。幕府は度々襲う大火に本郷筋広小路等を設けたり大名火消加賀鳶や旗本「定火消し」、大岡越前之守は町火消『いろは48組』菊坂は「た」組に所属湯島聖堂建設の為、櫻木神社が元禄3年移動翌年眞光寺内に遷座【菅公】をお迎えする近隣氏子同様、菊坂町会も共同体を組んでいた筈です。明治二年に「道造屋敷残地」や代替地等を併せ菊坂町へと。明治33年、府令第16号で各町会に衛生組合が設置義務自治は進化、菊坂町会は現在に至ります。



桜木神社 大祭



■ 歴代会長

初代 金子 純雄（昭和27年10月～不詳）
二代 三野 久（不詳）
三代 柴田 正（不詳）
四代 飯塚みち子（不詳）
五代 近堂 可祝（不詳）
六代 平井 泰夫（不詳）
七代 片山 為親（不詳）

八代 柴田 正（不詳）
九代 早川 喜康（不詳）
十代 鈴木 孝俊（不詳）
十一代 塩谷 一三（昭和47年4月～昭和52年9月）
十二代 片山 孝祐（昭和52年10月～平成18年8月）
十三代 近堂 一郎（平成18年8月～）

町会のあゆみ

昭和27年10月菊坂町会より分離独立して、菊和会を結成現在に至っている。かつての本妙寺跡とその周辺のわずか67所帯の小さな町会で商店は理容クサマが1件のみで大部分はサラリーマンですが、最近町内の大地主が土地を手放したため、新興の一戸建ての家が急激に増え全所帯数比で17%を占めるまでに至っており平成17年、22年と続けて最新名簿を発行致しました。

昭和20年の空襲でこのあたりは大部分が消失しその時から住み始めた人たちと最近越してきた若い人たちとの年齢ギャップが大きく古い人たちは年齢的にも活動しにくくなっており世代交代が町会維持の鍵となっております。町会の行事は新年会、敬老の祝い、成人祝い、結婚や子供の誕生祝い、子供たちへの図書券支給、桜木神社祭礼、交通安全運動の参加等ですが、今年8月菊和会創立60周年の記念に全所帯にオリジナル防災用品セット（非常用持ち出し袋、多機能ラジオライト、トイレ用収納袋、折り畳み式給水タンク、ヘルメット、緊急用ホイッスル、サバイバルシート）を支給。防災に関しては一人暮らしの人が多いので状況確認などにも十分気を配っております。

町内には歴史のあとがあちこちで見られます。前述した本妙寺は1636年（寛永13年）

小石川より移転してきた大寺院ですが1657年に江戸の2/3を焼失した明暦の大火、いわゆる振袖火事の火元として有名です（現在は巢鴨に移転）。本妙寺跡地には佐藤高女（現女子美大）が建ちましたがこれも昭和20年戦災で焼失。又、公立小学校のさきがけとして明治3年市内に設けられた6つの小学校のうちのひとつが本妙寺におかれた第4校（本妙寺校）で現在の湯島小学校の前身となっています。又、町内に記念碑がありますがかつて竹下夢二、坂口安吾、尾崎士郎、宇野千代などそうそうたるメンバーが下宿していた菊富士ホテルのあともあります。ちょっと足をのばせば啄木ゆかりの赤心館、徳田秋声の旧居や一葉ゆかりの数々の遺跡があり祝日には大勢の観光客の姿に遭遇する観光銀座となっています。



菊富士ホテル跡

■ 歴代会長

- 初代 小池 英夫（昭和28年5月～昭和49年10月）
二代 浅野宗一郎（昭和49年11月～昭和60年5月）
三代 中島 常輔（昭和60年6月～平成25年4月）
四代 井口 桂子（平成25年5月～）

町会のあゆみ

台町町会は昭和25年9月に発足した台町文化会を母体とし、昭和30年5月に結成された。

町会の活動状況

当町会には総務部をはじめ、下記の通りの部を設けてそれぞれ活動している。

- 総務部－企画、運営、庶務及び慶弔、表彰に関すること。
- 経理部－会費、寄付等の収入、支出及び財産管理その他会計に関すること。

- 警防部－防犯、災害、防火等に関すること。
- 婦人部－婦人の親睦と文化の向上に関すること。
- 防災部－区役所の指導により新設したもので防災に関すること。

敬老の日に75歳以上のお年寄りに記念品とお菓子を贈っている。

夏季早朝ラジオ体操、スイカ割り・花火大会等のレクリエーション実施。

歳末夜警活動、交通安全・防災教室の参加。



楽しそうに花火をする子供たち



台町公園でのスイカ割りの様子

本郷五丁目町会

● 昭和30年結成

■ 歴代会長

初代 山上 九一 (昭和30年)
二代 田村 詩朗 (昭和31年)
三代 加藤 謙一 (昭和32年)
四代 後藤 安平 (昭和33年～昭和36年)
五代 江田 正治 (昭和37年)
六代 吉田 憲二 (昭和38年～昭和39、51、55年)
七代 鈴木 博 (昭和40年～昭和41、49、56年～63年)

八代 志水 晴雄 (昭和42年～昭和43年)
九代 松岡新治郎 (昭和44年～昭和45年)
十代 竹下 孝 (昭和46年～昭和48年)
十一代 太田作次郎 (昭和50年)
十二代 高橋 保 (平成元年～平成5年)
十三代 松本 清 (平成6年～)

町会のあゆみ

当町会の創立は昭和30年で、昭和60年には30周年記念行事を行った。その後も充実発展をつづけている。当町会の本郷通りにはビルが並ぶが一步入れれば閑静な住宅街である。町会員はマンションを含め250世帯。

当町会の特長

- 1) 婦人部が一年交代の輪番制である。町会を九地区に分け、各地区2名ずつ担当。部長は互選による。6～7年で当番が回ってくるので町会の仕事がよく理解でき、協力体制ができています。
- 2) 広報紙「いちょう」を年4回発行している。町会行事や新一年生、新成人、新町員の紹介、企業紹介その他。
- 3) 10年ごとに記念式典を行い、記念誌を発行している。

- 4) スタンドパイプ消火法を発案した。東京都でもその利用を奨励している。

町会行事

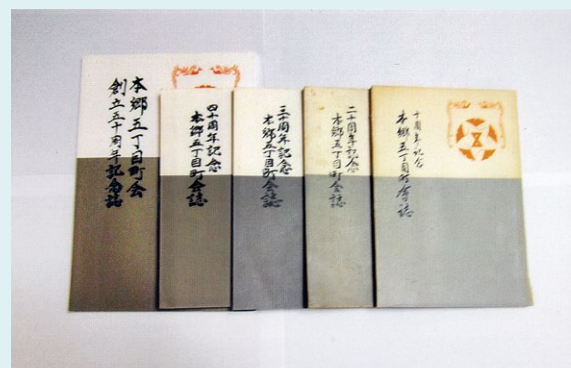
- 餅つき (新成人に紅白餅贈呈) ● 花見
- ラジオ体操 ● 七夕祭り ● こども花火大会
- 納涼大会 ● 防災訓練 ● 交通安全協力
- 夜警 (2週間) ● 白山神社祭り



七夕祭り



スタンドパイプ



町会記念誌

■ 歴代会長

初代 青木 正雄（昭和31年1月～昭和32年12月）
二代 遠藤 辰蔵（昭和33年1月～昭和34年12月）
三代 須藤 貫一（昭和35年1月～昭和36年12月）
四代 岩下清太夫（昭和37年1月～昭和39年12月）
五代 稲本 満一（昭和40年1月～昭和43年12月）
六代 中村 孝蔵（昭和44年1月～昭和45年12月）

七代 西 正男（昭和46年1月～昭和47年12月）
八代 青木 平吉（昭和48年1月～昭和49年12月）
九代 松岡 博一（昭和50年1月～平成20年3月）
十代 安岡 努（平成20年4月～平成23年5月）
十一代 浅地 康平（平成23年6月～平成24年4月）
十二代 小野寺 彰（平成24年4月～）

町会のあゆみ

町会連合会三十年記念誌に云う。

『古くは（本郷）三丁目別れ橋を渡り見返り坂を登り 旅人爪先立ちて人々に別れを告げんあたり我が町が始まる』と。

なかなか名文です。中山道の馬車中継地も近くにあったようで、中山道の街道から参道を延ばした、南から法真寺（樋口一葉の腰衣観音が有名）、藤之森稲荷、喜福寺（火折せ北向き観音）が所在する。西側は両寺の墓地があり街道を挟んだ東側は東大敷地である。他地区へ行くには南北に走る本郷通りか岡本薬局・須藤カメラ店横の道路か落第横丁の道路が西に抜けている道を使う。

戦前からある東大相手の本屋（洋書法律書仏教書医学書等専門店）さんや医療機械屋さんも最近では少なくなったとはいえ、営業している。

町会の一番北寄り落第横丁の飲食店通り

も残っているが、本郷通りのレストランなどは店替わりして食堂喫茶店画廊が並んでいる。店々の跡は模様替えして、大きなマンションが建った所もある。町会員の戸数は240を超すが半分近くがマンション住戸になった。マンション住民組合が町会員になっても、新しい個戸・住民が町会員になるのは少ない。

『白山神社、湯島神田山に在る時より氏子なるを誇りとす』

とあるように藤之森稲荷社の例祭には白山神社宮司主宰で地縁ある現区長も列席いただいている。

町内北西の隅にある本郷児童館の広場では毎年十二月に恒例の餅つき大会を行い、お相撲さん呼んで町内だけでなく、近隣の住民・児童にも喜ばれている。

町会ももうすぐ、結成60年を迎えようとしている。



今年も朝日山部屋の力士さんがお手伝い



婦人部のみなさんのお手伝い



子どもさんもおもちつきのお手伝い

■ 歴代会長

- 初代 内田 三嗣（昭和21年4月～昭和51年3月）
二代 内田 充子（昭和51年4月～昭和57年3月）
三代 土屋 好平（昭和57年4月～平成22年9月）
四代 立野誠一郎（平成22年10月～）

町会のあゆみ

当町会は大正10年に本富士町会として発足しましたが、第二次世界大戦の東京大空襲により全戸焼失してしまい、自然解散となってしまいました。

そして、戦後、いち早く復興に着手し、近隣町会と連合して“本郷美観商店街”を結成し街灯、防犯灯を設置して町を美しく、明るくするように努めてまいりました。

その後本郷防火協会設立にあたっては積極的に後援し、本富士警察後援会、湯島天神参集殿の建設等に町会の方々の協力を得て参加をし、目的を達成して現在に至っています。

現在の主な活動としては湯島天神祭礼、町内にお祀りしている富士浅間神社祭礼を行っています。

近年は当町会も高齢化が進んでおり、高齢者へのケア、最近頻発している地震などの自然災害への対策を重視し、安心して暮らせる町会作りをして行きたいと思っています。

そして、もっと多くの方たちに富士山をお祀りしている富士浅間神社を“日本一の山”にちなんで“一番と縁のある”神社として親しんでいただきたく存じます。



“一番と縁のある”富士浅間神社



町会員の皆様

■ 歴代会長

三代 長谷川清七郎（昭和23年4月～昭和46年3月）
四代 塚田 松司（昭和46年4月～昭和57年3月）
五代 八重田重四郎（昭和57年4月～平成8年3月）
六代 深野 勤一（平成8年4月～平成12年3月）
七代 遠藤昭一郎（平成12年4月～平成14年3月）

八代 八重田敏子（平成14年4月～平成15年3月）
九代 辻 充（平成15年4月～平成20年3月）
十代 中村 文夫（平成20年4月～平成26年3月）
十一代 大塚 稔（平成26年4月～）

町会のあゆみ

江戸時代、庶民の自治組織は古くは各町を支配する名主のもとに5人組の制度や武家屋敷の辻番、自身番等の形態で発展してきたが、明治になっていずれも崩壊していった。

旧梅園町は天神社の境内に在り、町屋は数軒、府内で一番小さい町会であった。そこで旧天神一丁目と合併して両方から一字をとり「天梅会」と名付け、湯島天神の宮元町会となった。

昭和40年に新住居表示になり天梅会は湯島二丁目23、24、25、26、27、32、33番と三丁目20、21、28、30番地となった。

町会の事業を遂行するために地区を11班に区分して班長は公的機関（区、警察、消防、清掃等）よりの連絡事項を伝え、町

会費の徴収など協力していただいております。

天梅会は公的な付属機関でなく自主的な組織として会員の成人、小学校入学、敬老の御祝、赤十字、緑の羽根、歳末助け合などの募金、春秋の防犯、交通安全運動、火災予防運動、5月湯島神社の祭礼、慶弔の手伝い、湯島・本郷地区町会連合会に参加、湯島小学校避難所運営協議会に参加、歳末夜警など実施しており、天梅会の長い歴史においてこの土地に密着した活動をしております。

これからも会員が一致して「心のふれ合う幸を誇れる町」に向かって努力をと考えます。
(天梅会史より抜粋)



納涼子供会



天梅神輿

■ 歴代会長

初代 増田 敏行（昭和22年3月～昭和25年2月）
二代 川辺多喜男（昭和25年2月～昭和27年12月）
三代 増田 敏行（昭和28年1月～昭和30年12月）
四代 川辺多喜男（昭和31年1月～昭和33年12月）
五代 河合 磯次（昭和34年1月～昭和38年12月）
六代 松本 喜三（昭和39年1月～昭和44年12月）
七代 安井 勇（昭和45年1月～昭和47年12月）
八代 飯塚 佳治（昭和48年1月～昭和55年12月）

九代 木村 信行（昭和56年1月～昭和59年12月）
十代 上村 正（昭和60年1月～平成元年12月）
十一代 堀江 忠（平成2年1月～平成5年12月）
十二代 岩井 昌造（平成6年1月～平成9年12月）
十三代 榎本 一夫（平成10年1月～平成14年12月）
十四代 原田 猛（平成15年1月～平成21年12月）
十五代 川辺 皓司（平成22年1月～）

町会のあゆみ

元和2年（1616年）徳川家康駿府にて死去により家康お付きの中間、小人、駕籠方のご家人衆が屋敷地として徳川家より拝領され、この地を三組町と名付けられました。その後、昭和22年3月（弥生）に下三組を三組弥生会として新たに町会が発足しました。

平成14年榎本会長の時に、町会の長年の夢でした2尺3寸の大人神輿が、町会員総意のもとに3年掛りで立派に新調され、湯島天満宮にて盛大にお披露目させていただきました。

町会行事としましては、元旦祭、成人祝、就学祝、湯島天満宮例大祭、夏期のラジオ体操、町会懇親納涼会、敬老祝、SYM三町会（新花会、三組弥生、三組町会）の災害連合会に加盟し、災害に備えて各種の訓練を実施、本郷消防署の防災コンクールにも

積極的に参加、春秋全国交通安全運動に協力、また火の用心、夜警など子ども達と時間分けをして声を張り上げて町会の防火、防犯に尽くしています。



子供神輿



婦人部



大人神輿

■ 歴代会長

初代 手島 栄吉（昭和23年～不詳）

二代 齊藤 光歩（不詳）

三代 吉川（不詳）（不詳）

四代 井本 良光（昭和34年8月～昭和43年8月）

五代 中川初太郎（昭和43年8月～平成7年4月）

六代 一色 一夫（平成7年5月～平成15年7月）

七代 岡野 幸弘（平成15年7月～平成25年3月）

町会のあゆみ

町会発足時の町会名は、湯島天神町一丁目下町会か天一交和会か定かではない。現在の町会名は、隣接町会が天二町会、天三町会なので、それに倣い昭和55年9月に天一町会に改名したものである。

町会行事としては、敬老のお祝、新入児童のお祝、年末の夜警パトロール、他町会との友好行事などを実施している。

特筆すべきものとしては以下のものが挙げられる。

平成17年9月防災出前講座を設け防災袋を配布し、平成24年には、防災リュック（天一町会ネーム、警笛入）を町会員に配布したところ、大変好評であった。

平成18年2月には、念願であった大人神輿を購入し、湯島天満宮「梅まつり」にてお披露目を行った。さらには、昨年、次の大祭に備えるため子ども神輿の化粧直しを行った。

「餅つき大会」は、平成16年に催行以来、第9回目を迎え大盛況である。併設してい

る「子どもひろば」も子ども達に大人気となっている。

東日本大震災時には、町会一丸となって、子ども達と共に義援金集めのため街頭に立ち、集まった32万円余りを寄付した。この義援金活動を通じ、子ども達が町会のあり方を実感するとともに地域の絆を深める出来事であったと思い、良い体験であった。

さらには、若手婦人部主催のバス旅行も、2年に1度実施しており、一昨年は「SL列車と長瀨下り」に行き、今年は、さくらんぼ狩りと温泉」を予定している。

8代目会長も決定、新旧会長の伝達を兼ねた役員との食事会もなごやかに終了。新会長金子國人による新体制がスタートする筈でしたが… 一週間後の突然の訃報。現在副会長4名による代行で滞りなく、町会行事をすすめております。若い英知を結集した天一町会が楽しみです。



子ども神輿の出発



連合神輿渡御 出発前全員集合

■ 歴代会長

初代 若原正七郎（昭和20年～昭和30年）
二代 中川 宏（昭和30年～昭和59年3月）
三代 木下 一弥（昭和59年4月～平成8年5月）

四代 池田日出男（平成8年6月～平成19年4月）
五代 飯村 実（平成19年4月～平成22年1月）
六代 林 秀訓（平成23年1月～）

町会のあゆみ

我が町は、大正初期に天神町貳丁目町会として発足し、戦後天二町会と改名し、平成5年に町内の日栄建設（株）のご厚意により、町会会館を大改修して頂き、平成7年には法人格を取得した。会館は10坪だららずの2階建てで町会行事の中心になっている。

3代目木下会長は、前会長の約30年の在任期間副会長として会長を補佐し、実務をほとんど担当し、商店が少なく男性会員の協力が困難で会員の若き奥様方を中心とし、祭禮、防災等の行事の際、炊き出し、下準備、清掃を行い会員相互の和を大切に、町会事業の理解、協力を深める目的とし、2年交替の組長制度（14組）を構築し、現在の町会運営の基となっている。

4代目池田会長が地道な運営を行い、5代目飯村会長は道半ばで逝去され、梅澤、宮内副会長が中心となり、高齢者、子供達を含めた夏休みウォーキングを始め、地域の活性化に努め町会の伝統を守っている。

独自行事として、女性部中心に復興地蔵の日々のお花の供え、毎年9月1日の平和記念式典。リサイクル部がダンボール、新聞、雑誌を週1回の収集し、月末の金曜日、業者に出荷している。

今年9月8日に予定している（第8回）白梅商店会青年部主催の“ちびっ子広場（昨年800名）”に協力し、焼ソバ、たこ焼き、ゲーム、飲料水等無料提供、防災、防火訓練を取り入れ、将来を担う子供達に、町を愛し伝統、文化を継承する目的として力を注いでいる。

インターネット時代に入り、変化が激しく、情報量も増し、正確に把握し、選択が困難な時代ではありますが、神輿渡御の掛け声“ワッショイ（和が一緒）”のように、お互い精神を思い出し、東日本大震災発生後、防災対策として天神下災害連合会（天一、天二、天三、同朋町会）を建ち上げ、全町会員協力の元、災害弱者にも安心して居住し易い町作りをめざしている。



湯島天神のお祭り



防災・防火訓練

■ 歴代会長

六代 和田 義春（昭和18年～昭和34年3月）
七代 野沢 留吉（昭和34年3月～昭和35年10月）
八代 海保 元彦（昭和35年10月～昭和57年12月）
九代 深沢 新平（昭和57年12月～昭和59年3月）
十代 田野 登（昭和59年4月～昭和62年12月）

十一代 松下大二郎（昭和63年5月～平成1年5月）
十二代 井水 愛吉（平成1年5月～平成9年5月）
十三代 佐藤 要一（平成9年5月～平成17年5月）
十四代 田邊 泰治（平成17年5月～平成26年6月）
十五代 古澤 健治（平成26年6月～）

町会のあゆみ

当天三町会は昭和3年（1928年）湯島天満宮のほぼ東と東北に広がる、所謂、天神下と呼ばれた地域の住民の親睦と発展を願って組織された町会を母体として現在に至っております。平成7年（1995年）、町会事務所の再建、町会運営の合理化を目指して町会の法人化を果たし、更に都や区よりの助成金を得て平成9年（1997年）には地上4階建の現在の「天三町会会館」が再建され町会活動の拠点となっております。戦前の花柳界で賑わった粋な雰囲気を残しながらも、戦後の復興とともに町内にも都市化の波が押し寄せ街の様子も変貌しましたが、アクセスの良さから山の手と下町を結んで人が賑わう街として親しまれております。町会の会員には地域に根ざした飲食、食品・物品販売、サービス業などで2代、3代に亘った家業を継ぎ新しい時代にマッチした営業を展開している人、あらたにこの町の好立地、雰囲気に事業を展開しようと町内に転入して飲食店を中心に頑張っている人などが仲良く町の発展に取り組んでおります。特にその範囲に当町会を包含する白梅商店会とは会員も役員も重複する者が多く相互に連携、協力しながら地域住民の親睦と福利そして、地域の活性化に励んでいるところです。

当町会のメインイベントは何と言っても毎年5月に開催される湯島天満宮の例大祭です。“お祭り命”で結びついた絆が、お祭りは勿論、地域の防災・防犯活動、成人・敬老のお祝いなどの町会の諸行事にいかされております。少子化の時代ではありますが将来の天三町会の担い手となる子供達にもお祭りなどを通じた地域社会への参加を促しながら、この素晴らしい町会を遺してくれた先人達のご苦勞に感謝しつつ、更なる町会の発展に励んでいきたいと考えております。



湯島天満宮境内を渡御する天三町会神輿

■ 歴代会長

戦後の規制に依り町会活動が出来ずこの間会長不在
(昭和21年秋～昭和28年1月)

初代 川口 章八 (昭和28年2月～昭和37年2月)
二代 石坂 一雄 (昭和37年3月～昭和39年2月)
三代 白川 末吉 (昭和39年3月～昭和43年2月)
四代 湯尾 富雄 (昭和43年2月～昭和53年2月)

五代 門前 正一 (昭和53年2月～昭和57年2月)
六代 中村 三郎 (昭和57年2月～平成6年10月)
暫定 滝沢 彦治 (平成6年11月～平成7年4月)
七代 中村 充 (平成7年4月～平成11年3月)
八代 溝口 智正 (平成11年4月～)

町会のあゆみ

昔は芝崎村の内に属して寺地であったという。

明暦3年(1657年)振袖の火事で焼失。その後明暦4年(1658年)江戸城西の丸の表坊主衆による拝領地となり、寛文12年(1672年)町座を開き同朋町と名付ける。

戦後はや60余年、町会結成されたのが昭和21年秋、初代会長は故川口氏である。当町会は下谷区と本郷区の区境で、通りには松坂屋を控えながら、本郷の一角花柳界の街として栄えた。

同朋町は、全域といってよいくらい日暮れとともに三味線の音、声色、新内流しもよく聞かれた。横丁は待合、芸者置屋ばかりで正月には、芸者衆が帯を柳に締め、髪に稲穂をさして行き来する。表通りは、都

電の厩橋・大塚行きの電車通りで飲食店、物品販売店の商店街で形成された町でした。

今は高層ビル、町内の大半が耐火鉄骨ビル街で、湯島天神や上野公園などが近いせいもあって、参拝・行楽の還り客が飲食店等に立ち寄り、歓楽街としての顔ももっている我が町である。現在7代続いた会長の跡を溝口智正会長が引き継いでいる。

平成12年12月12日には地下鉄大江戸線も開通し、近年には歩道もカラー舗装され、新しく植えられた街路樹の「はなもも」が春にはかわいい白い花をつけ、行き交う人の目を楽しませてくれる。夜にはこれも新しい街路灯が湯島の街を照らしてくれる。これが今の湯島同朋町である。



平成21年町会旅行 宇奈月温泉



同朋町名物 女神輿

■ 歴代会長

- 二代 矢部 俊一（昭和20年8月～昭和40年8月）
三代 京野 三郎（昭和40年8月～昭和48年7月）
四代 野上 義二（昭和48年7月～昭和53年10月）
五代 一丸 孝次（昭和53年10月～平成1年8月）
六代 遠藤 治郎（平成1年9月～平成9年8月）
七代 大野 万里（平成9年9月～平成17年8月）
八代 柴山 十八（平成17年9月～）

町会のあゆみ

三十年記念誌によると、当町会の町会活動は戦後いち早く復活している。

祭りの子供神輿、山車には昭和27年謹製と記されている。当時の役員はじめ町民の並々ならぬ努力と結束があった事に敬意を表したい。

この子供神輿と山車は、長い年月、町会のシンボルとして活躍してくれたが老朽化が激しく、平成21年から3年がかりで、町民はじめ有志の方々のご理解を頂き寄附を募り新品同様に甦って、町会の貴重な財産となっている。



三町会合同お花見



三町会合同夏休みラジオ体操

主な行事

- 新年会
- 成人式お祝い
- 新入学児童お祝い・交通安全祈願（湯島天神）
- お花見（切通・竜岡・北 三町会合同）切通公園にて130名程参加
- 湯島天神祭礼参加
- ラジオ体操（切通・竜岡・北 三町会合同）夏休み10日間、切通公園にて150名程参加
- 防災避難訓練
- 敬老お祝い
- 婦人部において観劇会
- 切通公園の清掃・美化
- 資源ゴミ回収活動
- 総会・役員会



新品同様に甦った子供神輿と山車

■ 歴代会長

初代 秋元 尚（昭和60年4月～昭和62年6月）
二代 武田 豊英（昭和62年6月～平成6年6月）
三代 高橋 高男（平成6年6月～平成7年6月）
四代 高橋 龍正（平成7年6月～平成11年9月）
五代 矢部 敬三（平成11年9月～平成13年1月）
六代 伊藤百合子（平成13年1月～平成15年6月）
七代 竹森 義財（平成15年6月～平成18年6月）

八代 田羅間哲夫（平成18年6月～平成18年8月）
九代 松澤 靖子（平成18年8月～平成19年6月）
十代 入倉富美子（平成19年6月～平成20年6月）
十一代 齊藤 美福（平成20年6月～平成22年6月）
十二代 高橋 龍正（平成22年6月～平成25年6月）
十三代 松澤 靖子（平成25年6月～）

町会のあゆみ

湯島北町会の前身は、いまから40数年前に湯島四丁目に建設された集合住宅「湯島ハイタウン」の区分所有者約440世帯の自治会として発足した。

その後、マンション住民のライフスタイルに融和した町会組織の立ち上げに取り組み、昭和58年に湯島北町会として近隣町会から認めていただくところとなりました。

これと同時に、集合住宅における住民の生活と施設保全のためのルールである管理規約を作成し、湯島ハイタウン管理組合が設立され、翌59年の春以来、組合業務と併せて町会業務を遂行しております。

町会としては30年弱の経験しかありませんが、幸いにも近隣の先輩町会からご指導を賜り、湯島天満宮の氏子として、初詣に始まる年中行事や祭礼も行っております。また、龍岡町会・切通町会からお誘いいただき、「お花見の会」「夏休みラジオ体操会」を共同開催しており、これらの活動が、防災対策合同訓練や交通安全運動などの自治体活動へと有機的に繋がっているものと思われま。

一方、当町会独自の活動としては、湯島ハイタウンには玄関ホールと会議室があり、ここを住民の交流場所として、新年会・

祭礼・クリスマス会・図書室の通年開設などの文化・福祉的行事が行われています。また、玄関前にバス停があるため、強風雨の際にはホールを高齢者や身障者の方々の一時的な待機場所として提供するなど、地域の安全と情報伝達にも役立っています。

集合住宅内の町会という特殊性から、協同意識を醸成しやすい反面、地域活動に無関心な住民を生み出しやすい一面もあります。そこで、少子・高齢化を迎えた今後の課題としては、プライバシーを尊重しつつ風通しのよい、誰もが地域に貢献でき恩恵を受けられるコミュニティの形成を心がけたいと思っております。



楽しいクリスマス会

■ 歴代会長

- 初代 赤沢 光吉（昭和26年6月～昭和35年5月）
二代 内藤 敏雄（昭和35年6月～平成2年5月）
三代 倉林 春男（平成2年6月～平成4年5月）
四代 小山内清孝（平成4年5月～）

町会のあゆみ

竜岡会の沿革

現在文京区湯島4丁目が公式な地番となっているが旧町名の竜岡町を基盤として、町会活動を行っている。古地図によれば、江戸幕府の頃は、徳川家康の側近であった榊原式部太輔の家屋敷があった土地である。故事によれば七代目榊原政岑はなかなかの遊び人で、吉原の花魁七代目紺屋高尾と昵懇になり、ついに落籍した。花魁は殿様の奥方になり、立派に勤めたと言われている。

徳川三代将軍家光の乳母春日局の菩提寺麟祥院は町内にあり、墓は円柱の石に東西南北に貫く孔がある特異な形のものである。今も参観者が絶えない有名寺院である。

竜岡町は旧岩崎邸に隣接しており、現在の総合体育館はかつて岩崎家の馬場であった。戦後数年間は馬場を見ることができた。竜岡町内に岩崎家の直系が住まれる住居と三菱資料館がある。

昨年、森鷗外記念館が公開された。その資料によれば鷗外は若い頃竜岡町に下宿していたと記録されている。鷗外は小説「雁」

で無縁坂に住むお玉さんを想う書生岡田を書いているが、今でも多少の面影はある。無縁坂沿いの一角、現在秀和マンションに料亭「竜岡」があった。そこで、囲碁や将棋の名人戦が行われた。昔も今も静かな町である。

昭和20年春の空襲で竜岡町は本郷区役所を除いて竜岡町はほぼ全焼したという。その区役所あった場所には、今は広い駐車場になっている。

竜岡町も高層マンションが建ち並び町並み大きく変わった。それでも以前のたたずまいも残っている。この良さを保ちたいものである。

町内会活動「町内で行われている行事」

- ① 敬老のお祝い（該当者）約120名
- ② 成人のお祝い（該当者）約5、6人
- ③ 新入学生お祝い
- ④ 観劇（参加）約30人
- ⑤ レクリエーション（参加者）約30人
- ⑥ 歳末警戒活動（子供も参加）約30人
- ⑦ 新年会（参加者）約25人
- ⑧ 防災・防犯・交通
- ⑨ 湯島天神例大祭

三町会（竜岡、切通、湯島北）

共同行事として行っている。

春のお花見、夏のラジオ体操は参加者は年々増加し百数十人を越えるようになった。



湯島天神のお祭り

■ 歴代会長

- 初代 宮内謹之助（昭和37年～昭和43年）
二代 中村 春野（昭和44年～昭和46年）
三代 片根 喜道（昭和47年～昭和54年2月）
四代 大橋 勝也（昭和54年3月～）

町会のあゆみ

本町会の名前は、講安寺と称仰院の両寺の門前町として、旧名は「両門町」と称していたことから、この名が付けられた。

この講安寺は土蔵づくりの本堂でも有名である。江戸は家屋が密集し火事が多く、一度大火が起きると瞬く間に焼け尽くしてしまう。

幕府は防火対策として、瓦屋根や土蔵づくり（土蔵のように家の周りを土で塗り固める）を進めた。この土蔵づくりにしたのが講安寺の本堂である。火は寺の近くまで迫ったが、火災に遭うことなく現在に至っている。

この講安寺に面している坂を無縁坂といい、講安寺も無縁山法界寺ともいった。また、この周辺は武家屋敷が多く、武家に縁で武縁坂ともいわれた。

無縁坂は、森鷗外の小説「雁」の主人公岡田青年とお玉さんで有名になり、多くの人に親しまれている。

「岡田の日々の散歩は大抵道筋が決まっていた。寂しい無縁坂を降りて……不忍池の北側を廻って上野の山をぶらつく。……中に往来の人の目につくのは裁縫を教える女の家で……その隣に一軒格子戸をきれいに拭き入れて……」この格子戸の家にお玉さんがいて、岡田青年がひそかな好意を持

つ。その格子戸の家も昭和57年に姿を消した。

両門町会が設立されたのは、昭和37年10月7日で会員数34世帯であった。現在は、マンションも建設され、新しい町になってきているが、町会としては、小さく行事活動も難しい状況ではあるが、隣人の触れ合いを大切に笑顔のある町をこれからも守っていききたい。

町会の主な行事は、敬老の日の祝品の贈呈、交通・防犯・防災活動の協力実施、歳末の夜警等である。



土曜朝 清掃会